

2年間の活動を振り返って

1 昨年議員に選出をいただいてから、2年が経過しました。

8回にわたる定例会の度の一般質問、総務文教委員会や産業経済委員会での議論、会派や委員会の視察、行政評価や議会報告会、議員研修会、自分なりの研修、自治基本条例の検証、会派内での議論、地域からの市政への要望、地域行事への参加など「あっ」という間のできごとのような気がします。

その中で、議員あり方についていつも考えてきました。会派のなかで、昨年下水道料金の値上げ、指定管理者の選出、太陽光発電所の情報公開や設置など、今年になって野積みの制限を促す環境保全条例改正について話題に上り、それらの論議を通じながら、飯田市政について一定のチェックの役割を果たしてきたと思います。

特に、環境保全条例の改正については、飯田市の提案に対して会派としてパブリックコメントを出し、野積みについて環境モデル都市にふさわしい方向で条例が制定できるよう努力しています。

一般質問では、2年間、18項目の問題を取り上げてきました。太陽光発電所について3回、低炭素条例など環境問題が3回、会計制度や選挙制度に関することが2回、地元のまちづくりに関することが2回となっています。今後は焦点を絞りながら、飯田下伊那全体を視野に入れ、地元のことに耳を傾けて、質問を行っていきたいと考えています。

全国的に、首長と議員のあり方が話題になっています。飯田市議会では、全国に先駆けて自治基本条例を制定し、それに基づいて議会報告会も実施されています。報告会で出された意見も議員間で論議、視察などを経て、飯田市の施策に反映させていくようになり、その内容も充実してきました。産業経済委員会では、議会報告会で出された意見を基にして、若い人が飯田で働くところがないこと、有害鳥獣の被害をどうするかなど真剣な論議が続いています。こうした課題に議員のひとりとしてどのように対応していくのかが求められています。

地域の公民館活動や労働運動の経験が多少あるとはいえ、まだまだ地元橋北のことをはじめ飯田下伊那のことは十分知っているわけではありません。いろいろな人たちの意見を聞きながら、市民のための行政が進むよう、自己研鑽につとめていきたいと思っています。

2年間、私的なことでもいろいろありました。議員活動を陰に陽に支えてくださった皆様に感謝し、今後も精一杯の取り組みをしていかなばと考えています。

政策審議局長 福沢 清